

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 7 月 25 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	28.1 °C	3.8 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： -※ vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	36.3 °C	6.99 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	34.5 °C	0.23 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%

※作業に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	27.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	27.5 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	26.6 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	7/22 9:50 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/16 14:42 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/25 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28～ 4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、凍結の壁を造成していく予定であり、凍結状況については、測温管にて確認していく。

- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/7/22 核種分析のひとつである全アルファ放射能分析において、一部の試料で検出限界濃度の計算に用いる試料量に誤りがあることがわかり、誤った試料量により計算された検出限界濃度を報告していたことが判明。
 誤った試料量により検出限界濃度を計算していた試料は、H25/6 から H26/3 の間に核種分析を行った1～6号機サブドレン水、1～4号取水口内北側海水、福島第一南放水口付近海水および、福島第一5・6号機放水口北側海水の9箇所のサンプリング地点における試料の全 36 件のうち 32 件。これらの全アルファ放射能分析結果は全て「ND(検出せず)」であり、このうち、検出限界濃度を高く計算していた試料は4件、検出限界濃度を低く計算していた試料は 28 件。放射線計測は正しく実施されていたため「ND(検出せず)」の判定に変更は生じないものの、誤った試料量を使用して検出限界濃度を計算したものの。
 誤った試料量により計算された検出限界濃度については、正しい試料量により再計算を実施。
- 7/25 調査の結果、誤った試料量を使用した原因は、分析手順本文とフローチャートで試料量の記載が異なっていたこと、また、前処理実施箇所と放射能濃度計算実施箇所において、情報共有が出来ていなかったことから、誤った値を使用して検出限界濃度を計算していたことが判明。
 現在は、分析手順本文とフローチャートの試料量を合わせる改訂を行い、前処理実施箇所と放射能濃度計算実施箇所において、試料情報メモを作成し情報共有を図る運用に変更。
 また、全アルファ放射能分析以外の核種分析および福島第二に運搬して分析した試料について調査した結果、誤った試料量による計算をしていないことを確認。
- ・H26/7/25 8:50頃 構内地下貯水槽No.1北東側に設置されている仮設の発電機より発煙していることを協力企業作業員が発見し、消火器による初期消火を実施。これにより、発煙は止まったことを確認。
- 9:26 双葉消防本部へ連絡。その後、**当該発電機から煙が発生した経過について調査した結果***、地下貯水槽 No.1 北東側検知孔からポンプを使用し揚水するため、仮設発電機を始動したところ、黒煙が発生したため発電機を停止したこと、また、消火器2本にて、初期消火を実施したことにより、発煙が停止したことを確認。燃料および潤滑油に漏れは確認されていない。
- 12:10 富岡消防署より、「発電機の発煙事象」と判断された。
*・・・記載を追加いたしました。(平成 26 年 7 月 25 日)
- ・H26/7/25 11:00頃 サブドレン集水設備設置工事に従事していた協力企業作業員が体調不良を訴えたことから、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると診断。
- 11:57 救急車を要請。
- 12:32 救急車にて福島労災病院へ向かった。当該作業員の身体に放射性物質の付着はない。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日 7/15]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

- < H4エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < H6エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

- < 地下水観測孔サンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- < 地下貯水槽サンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。